

支援制度について

青森県や六ヶ所村が行っている支援制度をいくつかご紹介します。掲載の他にもさまざまな支援を行っておりますので、詳しい内容は村のホームページをご覧ください。



移住について

- **六ヶ所村移住支援金**
六ヶ所村に移住し、中小企業等に就業した又は起業した方等に対して最大100万円支給
- **六ヶ所村お試し移住体験**
村の暮らしをまるごと体感できるオーダーメイド型の移住体験プログラム

お仕事について

- **Aomori-Job**
青森県へのUIターン就職を支援するサイト

住まいについて

- **宅地購入・住宅新築等支援**
村で分譲している宅地の購入や住宅新築・リフォーム費用の一部助成

出産・子育て教育について

- **子宝祝金支給**
子どもの出生を祝福し、健やかな成長を促進するため子宝祝金を支給
- **保育料無料化**
村に住所のある0歳児から5歳児全ての保育料が無料
- **高等学校通学費等補助**
村外の高校へ通学(下宿等含む)する生徒への通学費等の一部補助

URL <http://www.rokkasho.jp/>

六ヶ所村までのアクセス

自動車

東京 …4時間 20分… 仙台 …2時間 20分… 盛岡 …2時間 40分… 六ヶ所村

東北新幹線と乗合タクシー

東京 …… 3時間 10分 …… 七戸十和田 …… 1時間 25分 …… 六ヶ所村

仙台 …… 1時間 30分 …… 七戸十和田 …… 1時間 25分 …… 六ヶ所村

飛行機とタクシー

東京 …… 1時間 10分 …… 三沢 …… 50分 …… 六ヶ所村

東京 …… 1時間 10分 …… 青森 …… 1時間 20分 …… 六ヶ所村

大阪 …… 1時間 30分 …… 青森 …… 1時間 20分 …… 六ヶ所村

札幌 …… 45分 …… 青森 …… 1時間 20分 …… 六ヶ所村

バス

野辺地駅 …… 1時間 …… 六ヶ所村役場

むつターミナル …… 1時間 30分 …… 六ヶ所泊車庫

三沢駅 …… 1時間 …… 六ヶ所平沼追館



六ヶ所村と暮そ

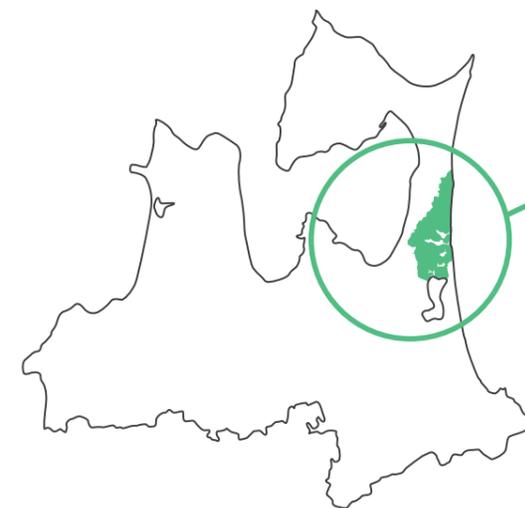
青森県六ヶ所村
移住ガイドブック

制作:六ヶ所村 政策推進課 政策推進グループ

〒039-3212 青森県上北郡六ヶ所村大字尾駸字野附475 直通番号:0175-72-8136

SPECIAL THANKS:六ヶ所村のみなさま

2021年1月発行



六ヶ所村って こんなところっ!

人口	10,131人 (令和3年1月1日現在)	世帯数	4,913戸 (令和3年1月1日現在)
面積	252.68km ²		

本州最北部の六ヶ所村

青森県六ヶ所村は下北半島の付け根に位置し、東側は太平洋に面しています。春から夏にかけて吹く“やませ(偏東風)”の影響もあり、年間平均気温は8~10℃と冷涼です。盛夏であっても30℃を超える真夏日は多くはありません。一方、冬は、早ければ11月下旬から降雪・積雪が始まり、遅いときには4月まで雪が残ることもあります。

これらの気候や地勢を活かして、古くから、漁業・農業・酪農業が主要産業として営まれ、近年では、原子燃料サイクル施設をはじめ、国家石油備蓄基地、風力・太陽光発電等のエネルギー関連施設、各種研究開発施設が集積する“エネルギーの村”として知られています。

青森県の野菜収穫量ランキング



自然が育てた絶品!

農産物では、香りや風味が良くシャキシャキとした食感が特徴のゴボウや色白で粘りが強くアクが少ない長芋のほか、ダイコン、ニンジンなどが主に生産されています。

また、漁業では、イカ、サケ、ヒラメなどが水揚げされているほか、酪農では、隣接する東北町とあわせて青森県における生乳生産量の約60%を占める牛乳を生産しています。



産業の変遷

国家プロジェクト「むつ小川原開発」の拠点。我が国を支える重要なエネルギー関連施設や研究機関が立地しており、この地域のポテンシャルを最大限活かし、成長産業の立地と研究開発拠点の整備による「科学技術創造圏の形成」を目指しています。特に、自然エネルギーでは、約100基の風車や約51万枚の太陽光パネルが設置され、標準家庭約10万世帯の年間消費電力相当分を発電しており、農業・漁業・酪農業とあわせて主要産業の一つとなっています。



人柄

広大な大地と海・山・川・湖沼に囲まれた雄大で美しい自然に生まれ、のんびりとおおらかで真面目な人が多いといわれています。そのような人柄もあり、むつ小川原開発に伴う多くの移住者を受け入れ、交流することで固有の風土を醸成してきました。のんびりといっても内には熱いものを秘めており、伝統を継承し、未来に向かって新たな文化を創ろうと挑戦を続けています。



四季を通じて感じる

やさしい空気。

見上げるとそこには

無限に広がる星の瞬き。

受け継がれてゆく伝統、

未来へとつなぐエネルギー。

おおらかな「こころ」を育む

六ヶ所村

六ヶ所村、どこ行こうか！

六ヶ所村での暮らしを買う、楽しむ、学ぶ、安らぎの4つの部門に分けてご紹介します。



「毎日のお買い物から外食も」

ショッピングモールREEVや特産品販売所「六ヶ所館」で、食材や日用品を購入できるほか、ドラッグストア、ホームセンター、コンビニなどもあり、生活必需品は村内で購入することができます。また、村内各地に飲食店も充実しており、ご家族で外食を楽しむこともできます。

 **スーパー** 4店舗  **ドラッグストア** 2店舗  **ホームセンター** 2店舗  **24** **コンビニ** 7店舗

ヒント！

村内で購入できるものには限りがあるため、週末はドライブやレジャーも兼ねて、むつ市、三沢市、八戸市、十和田市や青森市（車で約1～2時間）などの周辺市部まで出掛けています。



「子どもも大人も楽しいがいっぱい」

お祭り・イベントや各種ワークショップなど、1年を通して子どもから大人まで楽しめる催し物が目白押しです。

また、総合運動公園や、トレーニング室・子ども用プールを完備した屋内温水プール、ゴルフ場などで日常的にスポーツを楽しんでいます。お食事にマッサージ、カラオケ、キッズコーナーを備える日帰り温泉施設ろっかぼっかで、家族でまったり過ごすのも村民の楽しみの一つです。

ヒント！

ぼんてん山の登山や尾駱レイクサイドパークでのカヤック・SUPなど自然を満喫できる遊びが増えています。古墳時代以降の土器が出土した大穴洞窟、輪郭がアニメ映画「となりのトトロ」に見える岩穴などを見ながらリアス式の海岸線を散策するのもよし。



「見て、触れて、学んで」

認定こども園から小・中・高校まで充実した教育環境が整っており、一部はスクールバスの運行も行っているため安心して学業に励むことができます。

また、49,000冊の図書を所蔵する図書館や次世代エネルギーを見て触れることができる六ヶ所村次世代エネルギーパーク、村の歴史がわかる郷土館など、身近に学べる施設も充実しています。

こども園	4園
小学校	4校
中学校	3校
高校	1校

ヒント！

中学校卒業後、約半数の生徒はむつ市、三沢市、十和田市などの高校へ進学し、バス通学や下宿・アパート暮らしをしています。村外の高校に通学（下宿等含む）する生徒の保護者に対する補助（7,000円/月）や奨学資金貸付事業を行っています。



「心も体も健やかに」

六ヶ所村医療センターでは、内科、外科、小児科、整形外科、眼科の初期医療を受けることができます。また、健康診断や各種予防接種の実施に加え、ドクターヘリ対応ポートを備えており、子どもからお年寄りまで安心して暮らせる地域を支えています。北部と南部にもそれぞれ診療所があります。

また、お風呂好きが多い六ヶ所村には温泉施設が4か所あり、体も心も癒されています。

診療所	3院
歯科医院	3院
温泉施設	4施設

ヒント！

六ヶ所村には産婦人科や耳鼻科などがなく、村外の医療機関へ通院しなければならない場合があるため、妊婦健康診査交通費給付（2,000円×14回）や子育て応援タクシー利用券（冬季限定：3万円相当分）を交付するなどとして、子育て世代を応援しています。



SHOP

買

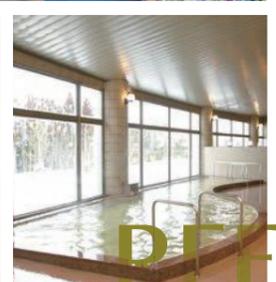
楽

ENJOY

HAPPY



学



女

REFRESH

移住者インタビュー

Vol.01

昔から動物が好きで

酪農業に従事するきっかけとまではいえませんが、もともと動物が好きで、最初は動物園の飼育員になりたかったんです。それで畜産の勉強しておけば為になるかなと考えたのがきっかけですかね。ご縁があって六ヶ所村の農業支援員として家畜飼育や酪農経営について働きながら3年間勉強させていただいたのが、六ヶ所村との出会いです。

その後、学生の頃から興味を持っていた放牧酪農についてもっと知りたいという思いから、先進国であるニュージーランドで1年間学んだ後、再び六ヶ所村に帰ってきて農業支援員として牛の世話や搾乳などの仕事をしています。

温かく迎えてもらえたことに感謝

酪農の先進地である六ヶ所村は酪農業に従事する者として憧れの地で、ここでこんな風に仕事ができていることが私にとって1番の幸せだと感じています。そう思えたのは、よそから来て農家の仕事をするってという変わり者の私を優しく温かく迎え入れてくれた方々がいたからです。その優しさを忘れずに、笑顔と活気を提供できるような、近所の人々が集い、牛が運んでくれたご縁を大切にする牧場を目指しています。5年後にはまず経営者になりたいですね。

仕事以外でも、ニュージーランドへ渡航前に語学力を少しでも高めようと、村内の無料の英会話教室に通っていたのですが、受講者のみなさんと交流を深め、良い繋がりを持つきっかけにもなりました。また、時間を見つけて行きたいです。

良い施設のそろったコンパクトな村

六ヶ所村はコンパクトな割に良い施設が多く感じます。休日は、屋内温水プール「ろっぶ」へ行き、泳いだり、走ったり、筋トレしたりしています。学生時代からスポーツをやっていたこともあり、体を動かしたり、鍛えたりするのが好きなんです。また、文化交流プラザ「スワニー」では様々な公演が開催され、著名な方もいらしているみたいです。

八戸市に友人がいることもあり、買い物で八戸市やおいらせ町辺りまで行くこともあります。車で1時間くらいですかね。七戸町の新幹線の駅まで1時間程度で行けるし、三沢市まで行けば空港もあり、割と都市部へのアクセスも良いかなと感じています。

秋田県から憧れの六ヶ所村に移住された遠藤響子さん。放牧酪農について語るその眼差しはとて輝いていました。



いろいろな交流があり
楽しいです

移住生活 1年目
2020年10月～
えんどう きょうこ
遠藤 響子さん
平成7年生まれ
秋田県秋田市出身

現在のお仕事 農業支援員(酪農業)

家族構成 単身



移住者インタビュー

Vol.02

千葉県から旦那さんの故郷である六ヶ所村にご家族で移住された橋本祐子さん。六ヶ所村に来てから始めた農業や子育てなどについてお話を伺いました。

農業の魅力を感じながら

特産品販売所「六旬館」やショッピングモールREEVに野菜を出荷しているのですが、「おいしかったよ」「〇〇持って来てくれる?」などお客様から直接声をかけていただくのがとても嬉しいです。畑とかでよくぬかるんだりするんですけど、そんな時は必ず助けてくれますし(笑)。人が本当に優しいですね。都会ではあまり感じることがなかったのですが、六ヶ所村に来てからそういったことが沢山あったので、すごく良いところだなと思います。これからも、私たちの野菜を知っていただき、理解してくれる方に直接お届けしていきたいです。

娘の嬉しそうな笑顔がなにより

待機児童がゼロで、娘はすぐにこども園に入園することができました。また、保育士の人数が多いことも安心できるポイントです。娘が「こんなことがあったよ」「あんなことやったよ」と嬉しそうに話してくれる姿を見て、私も嬉しく思います。

村内には無料で遊べる施設や親子で参加できるイベントもあつたりするので、楽しみながら安心して子育てできる環境だなと感じています。保育料も無料ですし、補助等も手厚くて六ヶ所村に来て良かったと思いました。



少しだけ困ったことも…

私が住んでいる地区のこども園、小学校、中学校は隣接しており、自宅からも職場からも車で5分くらいの距離なので、そこも安心です。また、医療センターも車で20分くらいの距離にあり、困ったことがあったらすぐに行けるのも良いですね。ですが、産婦人科や耳鼻科などは周辺市部の病院まで行かなければならず、体への負担や通院時間確保などを考えると不安はありますね。



安心して
子育てできる環境です

移住生活 1年目
2019年6月～
はしもと ゆうこ
橋本 祐子さん
平成2年生まれ
秋田県横手市出身

現在のお仕事 農業

家族構成 ご夫婦・お子さん1人



移住者インタビュー

Vol.03

まさかのUターン

夫婦共に青森県出身ですが、東京で出会い、結婚、出産。青森で子育てをしたいと考えてはいたのですが、六ヶ所村に戻るとは決めておらず、実家の建て替えのタイミングや、親の面倒見るなど後々のことを考えるとって感じでした。妻もまさか六ヶ所村に来るとは考えていなかったと思うので、最初は困惑していたと思います。慣れない土地に馴染むまでは本当に大変だったと思います。僕もこっちで働いたことがないので、不安の方が大きかったですね。

子どものやってみたくを一緒に

地元の方々は気軽に話しかけてくれ、そういった干渉の目があるので悪い人もおらず、子ども達も都会よりは伸び伸びするのかなと感じています。子どもの可能性は無限大なので、できるだけ選択肢を与え、親の言うことをただ聞くのではなく自分で選んで進んでいって欲しいと思っています。あれダメこれダメとしつけとしては言いますけどね。



月2日は家族で楽しむ日にしていて、子ども達が参加したいイベントがあれば一緒に参加したり、家でバーベキューをしたりしています。僕は美術館が好きなので、子ども達を連れて十和田市や青森市の美術館に行ったりもします。子どもが大きくなったら一緒にスノーボードもやりたいなと思っています。やりたいって言うてくれれば良いのですが(笑)。

人となりを大切に

スペイン語で“幸せ”という意味の「Feliz」を店名にしました。美容師としての仕事を通して、その人の人生観が少しずつでも良い方向へ変わるお手伝いできればと思っています。趣味趣向などを聞きながら生活スタイルに合うヘアスタイルを導き出していくそのやりとりが好きなんです。新規のお客様は話が長くなってしまってカットに入るまで1時間位かかるときもあります(笑)。

目指しているわけではないんですが、ここは自由空間となっておりますね。お弁当持ち込んで食べてからカット始める方とか、漫画だけ読みに来る中学生もいたりして。それはそれでOKで、少しでも地域に貢献できればと思っています。

六ヶ所村にUターンして7年目の高田透一郎さん。2013年5月から美容室 Felizを開業し、仕事と家庭のバランスを大切にしながら地域に幸せを提供しています。



みなさん気軽に話しかけてくれます

移住生活 **7年目** 2013年3月～
たかだ とういちろう
高田 透一郎さん
昭和52年生まれ
青森県六ヶ所村出身

フェリス
現在のお仕事 **美容師 (Feliz)**

家族構成 **ご夫婦・お子さん2人**

移住者インタビュー

Vol.04

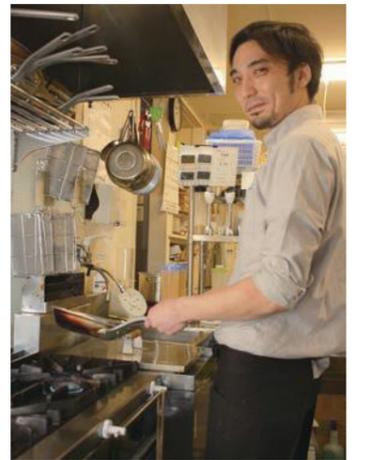
Café Myuufor店長の小林誠さん。レストランの新メニューや村民との交流など、この地域で新たなチャレンジをしていきたいとのこと。

震災をきっかけにUターン

高校を卒業後、上京してエンジニアとして働いていましたが、時々食べに行く賑やかなオープンキッチンのイタリアンレストランがとても好きで、働いてみたいと思ったのが今の仕事を始めるきっかけとなりました。ちょうど、六ヶ所村でお店をオープンする話をいただいていたこともあり、2011年の震災をきっかけに青森に戻ってくる決意をしました。

六ヶ所村の自然や人と触れ合いながら

メニューには、地元の食材や特産品販売所「六旬館」に納品される野菜などを積極的に使っています。みなさんに楽しんでいただけるようメニューの更新もしていきたいですし、気軽に「今日はCafé Myuuforに行こっか」というところまで地域に根差したお店になっていきたいと思っています。



趣味でドラムを叩いていますが、六ヶ所村の人たちとバンドを組んだり、ドラムを子ども達に教えたりもしていました。また、自然が好きなので、休日はバイクで山道を走って楽しんでいます。バイクは好きですが、車の運転はあまり得意ではなくて雪道の運転はまだ慣れませんけど。

新しいことにチャレンジしたい

Uターンで戻ってきましたけど、また東京に戻りたいとは思ってなくて、この地域で何か新しいことをやっていきたいなと思っています。料理を作ったり接客をしたりっていうのは本当に楽しみながらできているなって思っていて、恥ずかしいですけど天職なのかなって。だから、プライベートも含めて楽しみながら色々とチャレンジしていきたいです。



人が親しみやすくとても良いところですよ

移住生活 **9年目** 2011年4月～
こばやし まこと
小林 誠さん
昭和58年生まれ
青森県東北町出身

カフェ ミューフォー
現在のお仕事 **シェフ (Café Myuufor)**

家族構成 **単身**



移住者インタビュー Vol.05

“六ヶ所風雪太鼓「響」”メンバーのうち4名の移住者のみなさんからお話を伺いました。方言や雪道運転などの困難を乗り越えて、今では村での生活を満喫しているようです。

方言に困惑していました

方言で“でかす”っていう言葉があるんですけど、初めて聞いた時それが“完了させる”という意味だと分からなくて困惑しました。「それをでかしてくれ」って言われて「えっ?」ってなっていましたね。イントネーションは何となく大丈夫なんですけど、分からない単語を言われるとだめですね。慣れるまでは笑ってやり過ぎていました(笑)。

1時間の移動も平気になりました!

はじめは車で15分程度の生活圏内に大きな商業施設があると勘違いして、泣いて帰ったこともありましたが、10年以上暮らしていく中で市部への1時間の運転も平気になりました。県外の友人に大変だねとよく言われますが、もう慣れちゃいました(笑)。

雪道運転の経験はほとんどなくて、初めて過ごす冬の運転は家族から禁止されてました。慣れれば雪道運転も平気になる方もいれば、六ヶ所村の中でしか運転しないという方もいて、人それぞれですね。除雪が行き届いているので、そこは安心できますね。

様々な出会いを楽しみに

慣れない土地でこもりがちになってしまうこともあるんですが、公民館の生涯学習講座などが充実していて、参加すると様々な出会いがあって楽しいですね。六ヶ所村には外国の方も結構住んでいらして、異文化交流の機会があるのも素晴らしいと思います。そういった村内のイベント等は、ショッピングモールREEVに貼ってある案内チラシを見たり、公民館で教えてもらったりして情報収集しています。

子どものこれからについて

冷暖房完備など学校設備が整っているのは子ども達にとってとても良い環境ですね。六ヶ所村で暮らす前はよく風邪をひいていましたが、そんなこともほとんどなくなりました。給食費無料、中学生まで医療費無料というのも助かっています。

進路については中学1年生の時からアンケートが配られるので、たくさん話し合いを重ねています。正直、行きたい学校よりも行ける学校を選ぶという側面はあるかも。村内か村外か、祖父母がいる県外か…。本人の不安な気持ちを考えると親としてもしっかりとサポートしてあげたいと思うのですが、親も不安や心配などそれぞれ抱えていますし、そこはしっかり相談して決めていこうと思っています。



移住生活 10年以上 ろっかしょふうせつだいき「ひびき」
六ヶ所風雪太鼓「響」

2019年10月結成。メンバーは小学生から50代までの幅広い年代で構成。村内のお祭りや催し物などで太鼓を披露しています。力強いバチさばきと迫力ある音色でたくさんの人を楽しませています。

むらびとインタビュー

生まれも育ちも六ヶ所村というお2人にインタビューさせていただきました。長年住んでいるから見てきたものがあるようです。

六ヶ所村で生まれて **38年**
ほしもと しょう **橋本 翔さん**
昭和57年生まれ
六ヶ所村尾駸地区
【現在のお仕事】
漁師
【家族構成】
ご夫婦
お子さん3人

移住希望者へメッセージ
人が優しいです。はじめは気難しい雰囲気もありますが、話しかけるとだいたいみんな気さくに応じてくれるので、分からない所は人に聞けばいいし、すぐに仲良くなれると思います。



親子でマリンスポーツを楽しむ

六ヶ所村には山や海、川、湖沼もあるので自然を満喫できるエリアが多いです。趣味はサーフィン、シーカヤック、SUPなどのマリンスポーツ。平日は近場で楽しんでいます。休日は東通村や八戸市などまで足を運びますね。子どもと一緒にサーフィンするのがとても楽しいです。

楽しみを自ら創り出す

地元のみなさんにマリンスポーツを楽しんでもらいたいという想いで、2020年にカヤック&SUP体験会を尾駸沼で開催しました。親子で参加いただいた方や初めて体験する方にも楽しんでいただけたようです。また、音楽も好きで、「音楽のチカラで地域を盛り上げよう」をテーマに『BLUE GREEN CAMP FESTIVAL』というフェスを2019年に立ち上げました。音楽だけでなく、キャンプやスケボー体験、各種ワークショップなども楽しめるイベントです。何より自分が楽しむことを大事にしていますが、これからも継続して開催していきたいと思っています。



好きなことを仕事に

サラリーマンとして11年ほど勤めていましたが、仕事に魅力を感じなくなってきて数年前に漁師に転職しました。祖父も父も漁師であったこと、何より好きな海で仕事ができることが嬉しいです。趣味に費やす時間も増えました。

漁師になってから、「地元にいるのに地元の魚を食べたことがない」という話を聞きました。僕達は漁師だから食べることができるのですが、地元で獲れた魚が地元で流通する仕組みがなかったんですね。海から家庭の食卓までの流れを作りたいと思って会社を起し、地元でもっと気軽に新鮮でおいしい魚を食べることができる環境を作りたいと思っています。ブランド化もしていきたい。やりたいことを挙げるとキリがないですね。

六ヶ所村で生まれて **61年**
あいさか きたと **逢坂 喜多子さん**
昭和34年生まれ
六ヶ所村泊地区
【現在のお仕事】
はいから食堂店主
【家族構成】
ご夫婦・犬1匹

移住希望者へメッセージ
六ヶ所村ならではの不便さを楽しみに来て欲しいです。都会の人だけではなく田舎の人にもたくさん出会い、六ヶ所村の未知の魅力を見つけて欲しいです。



定年前に新しいことに挑む

泊地区にみんなで集まってお茶するような場所がなかったこと、私の作った作品の物販ができる場所を作りたいという思いから、それらを併設したカフェ食堂を定年間近に始めました。60歳手前で新しいことに挑戦するのは大変なこともありました。たくさんの方の協力もありオープンすることができました。今では県内各地や、遠いところだと栃木県からいらしてくださった方も。ご年配の方から学校終わりの子ども達まで幅広い年代の方に来ていただいています。

六ヶ所村の人たちは義理人情に厚いです

村の人たちはみんなすごく個性があると思います。恥ずかしがり屋ですぐに溶け込めない部分もありますが、いったん仲良くなったら義理人情には厚いし、優しく接してくれる人は多いと思います。ただ、そういう風に受け入れてくれるまでには多少の時間はかかってしまいますけどね。

田舎なので不便なことはもちろんありますが、私はこの不便さが魅力だと思っています。不便な田舎でも便利な都会でも生きていく上で人との関わりはとっても大事。ここでの生活を楽いって感じることもやたくさんの良い人に巡り合うことが不便さを補うには十分だと思うんです。

温もりのてしごとや

店内に併設している「蔵布人えにし堂」では昔から好きで集めていた古い布を使って作った服やカバン、若い作家さんの作品や古物などを販売しています。今の目標は、漁師を引退していく人が増える中で、大漁旗の行方に困っている知人から譲り受けた旗を使って作品を作っていくことです。船と共に大切に時を過ごしてきたからこそ、それをしっかりと受け継いでいきたいと思っています。